

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024

■開催概要

■開催概要

- シリーズ名称 : 第60回 NGKスパークプラグ杯 2024鈴鹿サンデーロードレース最終戦
- 主催 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 協賛 : 日本特殊陶業株式会社
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 参加台数 : 総参加台数.....212台
 - インターJP250.....12台
 - ナショナルJP250.....24台
 - インターJ-GP3.....11台 (内、HRC NSF250R Challenge 0台)
 - ナショナルJ-GP3.....13台 (内、HRC NSF250R Challenge 7台)
 - インターST1000.....29台
 - ナショナルST600.....53台
 - ナショナルST1000.....28台
 - インターST600.....23台
 - インターJSB1000.....19台
- 開催日 : 2024年11月16日(土)・17日(日)
- 天候/路面 : (16日)曇り時々雨/ドライ→ウェット、(17日)曇り後晴/ドライ

※2024年の鈴鹿サンデーロードレースは、この大会でシリーズ日程を終了いたしました。
2025年の開催につきましては、別途あらためてご案内いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>



鈴鹿サンデーロードレース最終戦の恒例としてエントラントやチーム関係者がホームストレート上に集まり、集合写真の撮影が行われた

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun), 2024

シリーズ最終戦、決戦の「NGKスパークプラグ杯」にて 全カテゴリーのシリーズチャンピオンが決定!

全日本ロードレース選手権につながる競技志向の強いレースシリーズである鈴鹿サンデーロードレース。その2024年シーズンが開幕したのは4月20日(土)のことだった。それから数えること約7カ月。これまでに3戦を終え、11月16日(土)・17日(日)に2024年シーズンの最終戦が開催された。

ステップアップを狙う若手から長年レースを戦うベテランまで、幅広いライダーがしのぎを削るこのシリーズは毎戦多くの参戦を集めている。開幕戦に45台、第2戦に58台、第3戦に42台と、これまで特に多くの参加台数を集めてきたナショナルST600には今回は53台が参加。A・Bの2グループに分けて行われた11月16日(土)の公式予選から白熱したタイムアタック合戦が披露され、翌17日(日)に開催された決勝レースも最後の最後までひと時も目が離せない展開となった。

また、その他のカテゴリーでもチャンピオンを獲得すべく、いつも以上に激しいバトルが展開された。軽量クラスのインター／ナショナルJP250およびインター／ナショナルJ-GP3のレースではファイナルラップの最終シケイン進入でイン側のポジションを取るべく、激しい突っ込み合戦が披露された。

今回は16日(土)の昼のインターバルにホームストレート上で大会恒例となっている集合写真の撮影が行われた。また、特別スポーツ走行が行われた11月15日(金)と予選日の16日(土)には、MFJテクニカルアドバイザーである小澤源男氏によるライディング講習会も行われた。

なお、鈴鹿サンデーロードレースの最終戦は「NGKスパークプラグ杯」という名で親しまれている。日本特殊陶業株式会社のご協賛の元、開催されてきたこのレースは今回が記念すべき60回大会だった。全カテゴリーのシリーズチャンピオンが決まったこの伝統の一戦を最後に2024年シーズンの鈴鹿サンデーロードレースが無事閉幕した。



昨年から全戦がフルコースの2DAY大会として行われている鈴鹿サンデーロードレース
今回は11月16日(土)に全カテゴリーの公式予選とインター／ナショナルJP250の決勝レースが行われた

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024

■インター／ナショナルJP250

公式予選では野村唯人が他を圧倒する2分30秒569をマークしてポールポジションを獲得。ウェット宣言が出されて行われた決勝レースでは2番グリッドからスタートした中川涼が伸びていく。ホールショットを奪ったのは中川。その後ろに5番グリッドスタートの前田誠司が続く。前田が中川をパス。前田と中川の間で野村が割って入る。中川、野村、前田のオーダーでオープニングラップを終了すると、野村が2周目のメインストレートでトップに。前田も単独2番手になる。安定した走行を披露し続けた野村が2位以降に3秒203のアドバンテージを築いてトップチェッカーを受けた前田がナショナルJP250のチャンピオンに輝いた。インターJP250では総合5位の中川が4戦全勝でタイトルを獲得した。



インターJP250表彰式 (優勝:中川涼、2位:鈴木悠大、3位:辻本範行)



ナショナルJP250表彰式 (優勝:野村唯人、2位:南博之、3位:前田誠司)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun), 2024

■ナショナルJP250車両銘柄賞表彰式



ナショナルJP250車両銘柄賞表彰式 (Honda賞:野村唯人、ヤマハ賞:前田誠司、カワサキ賞:松田洋)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024

■インター／ナショナルJ-GP3・HRC NSF250R Challenge

全日本ライダー松島璃空が公式予選で堂々のトップタイムをマーク。その松島が良いクラッチミートを披露するが、3番グリッドスタートの富樫虎太郎がその横に並ぶ。富樫が松島をパス。しかし130Rでは松島が前に。松島、2番グリッドスタートの仲村瑛冬、富樫のオーダーでオープニングラップを終了する。その3台はテールtoノーズのバトルを展開。長谷川蒼馬と針尾大治郎がその背後に続く。5周目になると松島が頭ひとつ抜け出すことに成功。その後で富樫と仲村がバトルを展開するが、7周目のシケインで仲村が転倒。富樫が単独2番手となる。結局、松島が優勝。完走扱いとなった仲村が8ポイントを獲得し、インターJ-GP3のチャンピオンに。ナショナルJ-GP3では4位チェッカーを受けた針尾がタイトルを決めた。



インターJ-GP3表彰式 (優勝:松島璃空、2位:保坂洋佑、3位:中嶋昂士)



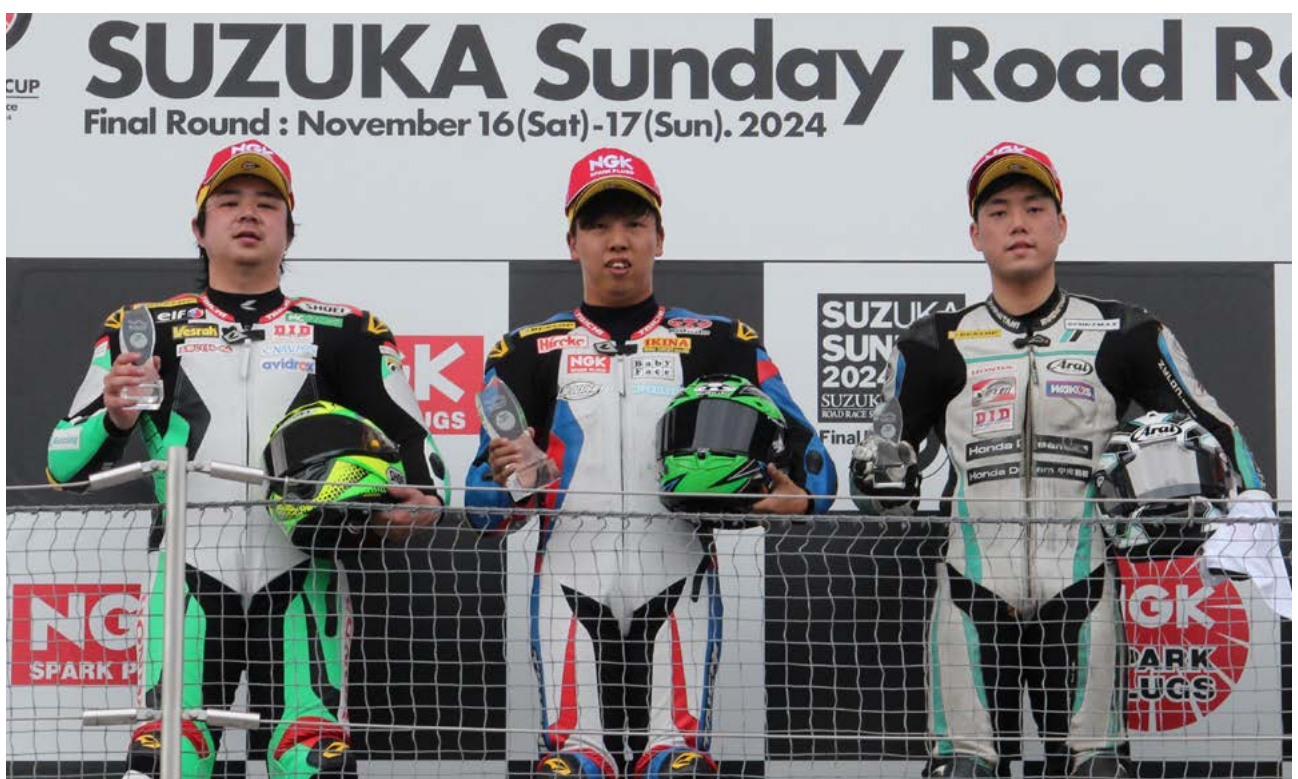
ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝:富樫虎太郎、2位:針尾大治郎、3位:鈴木未来翔)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun), 2024

■インターST1000

3戦連続ポールポジションを獲得している山中将基が公式予選で2分12秒324をマーク。2番手以降に1秒997のギャップを築いて全戦ポールポジションを獲得することとなった。決勝レースではその山中がホールショットをゲット。5番グリッドスタートの可部谷雄矢がそれに続く。山中は後続を引き離すと、オープニングラップ終了時点で2番手以降に2秒048のアドバンテージを築くことに成功。3番グリッドスタートの吉廣光が3周目に可部谷をパスして2番手に。一時的に単独2番手になった吉廣の背後に2番グリッドスタートの片平亮輔が接近すると、その2台は何度も順位を入れ替えるバトルを展開する。その後もリードを広げ続け、6秒934のアドバンテージを築いて3連勝を飾った山中がチャンピオンに輝いた。



インターST1000表彰式 (優勝:山中将基、2位:片平亮輔、3位:吉廣光)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024

■ナショナルST1000

ウェット宣言が出されて始まった公式予選ではまず中野涼真がタイミングボードのトップに。永山翔太が中野のタイムを上回り、ポールポジションを獲得した。決勝レースでは5番グリッドスタートの池田寛之、3番グリッドスタートの中野、6番グリッドスタートの辻尾裕司のオーダーでオープニングラップを終了すると、池田と中野が集団を抜け出すことに成功。しかし、トップを走る池田が3周目のS字コーナーで転倒する。これにより中野が単独トップに。その中野の背後に永山と4番グリッドスタートの竹中淳雄が迫り、トップグループは3台での争いになる。竹中が永山をパスすると中野のテールにも接近し、永山にプレッシャーをかけ続ける。中野が逃げ切ってトップチェッカーを受け、チャンピオンを決めた。



SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024



ナショナルST1000表彰式(優勝:中野涼真、2位:永山翔太、3位:竹中淳雄)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun), 2024

■ナショナルST600

公式予選のAグループでは楠留維が、Bグループでは細谷匠がそれぞれグループトップタイムをマーク。Bグループのアタック時に雨が降ってきたため、よりタイムが良かった楠がポールポジションを獲得した。決勝レースでは4番グリッドスタートの富江慧、2番グリッドスタートの細谷、そして楠のオーダーでオープニングラップを終了。その3台がトップグループを形成するが、2周目になると富江が集団から遅れ始める。細谷と楠の2台が2分17秒台をキープしながらテールtoノーズのバトルを展開。細谷が楠を若干引き離すことに成功するが、楠が再び細谷に接近し、6周目にこれをパスする。その後もテールtoノーズのバトルを続けた末に楠が今シーズン初優勝。楠が逆転でチャンピオンを獲得することになった。



ナショナルST600表彰式 (優勝:楠留維、2位:細谷匠、3位:坂本佑心)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024

■インターST600

フルウェット路面で行われた公式予選では長尾健史がタイミングボードのトップに。塚原溪介が長尾のタイムを上回ったが、それをさらに上回った杉山優輝がポールポジションを獲得した。その杉山がホールショットを奪うと、それに4番グリッドスタートの中島元気が続く。スプーンカーブで中島が杉山をパス。中島、杉山、2番グリッドスタートの長尾のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。その3台がテールtoノーズのバトルを展開しながら4番手以降を引き離しにかかる。そこに3番グリッドスタートの塚原が接近するが、その塚原が4周目に転倒。杉山、中島、長尾がファイナルラップの最終コーナー立ち上がりまで激しいバトルを続けた末に長尾がトップチェッカー。井手瑤輔が逆転チャンピオンに輝いた。



インターST600表彰式 (優勝:長尾健史、2位:中島元気、3位:杉山優輝)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024

■インターJSB1000

公式予選では宮腰武と長谷川修大がタイムアタック合戦を展開。最後の最後でその2台のタイムを上回った中村修一郎がポールポジションを獲得した。決勝レースでは中村が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。4番グリッドスタートの長谷川がそれに続く。長谷川、中村、6番グリッドスタートの羽根巧のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、2周目に羽根が中村をパス。3番グリッドスタートの高橋直輝が3番手に浮上する。長谷川が一時的に後続を若干引き離しにかかるが、すぐに高橋が長谷川のテールを捉えることに成功。長谷川、高橋、中村がトップグループを形成する。後続を引き離れた長谷川が9周目に転倒して中村がトップチェッカー。2位に入賞した高橋がタイトルを獲得した。



インターJSB1000表彰式 (優勝:中村修一郎, 2位:高橋直輝, 3位:羽根巧)

SUZUKA Sunday Road Race

Final Round : November 16(Sat)-17(Sun). 2024

Voice of Pick up Riders -SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光った
ライダーに一问一答

この日、キラリと光ったライダーに一问一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

ナショナルJP250で優勝

野村 唯人 選手

(MTR・SHIN RIDING SERVICE/Honda CBR250RR)



Q. ウェットパッチが残っていた公式予選。2番手以降を1秒543引き離してポールポジションを獲得しました。

A. レコードラインはほぼドライで思っていたよりはずっと走りやすかったです。トップタイムはうれしいけれど、本当はコースレコードを塗り替えたかったので少し残念です。

Q. 2周目にトップに立つと、徐々に後続を引き離し、トップチェッカーを受けました。

A. 決勝はフルウェットだったので後ろはあまり気にせず、転ばないように走りました。サンデー最終戦の「NGKスパークプラグ杯」は特別なレースだと思っています。このレースで勝てて良かったです。

Q. MFJカップJP250も戦っている野村選手にとって鈴鹿のJP250はどのようなレースでしたか。

A. レベルはそこそこですが、最終戦の「NGKスパークプラグ杯」はやはり特別なレースです。去年のこのレースのように後続をもっと引き離して独走優勝を決めたかったのですが、今回はそこまで差が開きませんでした。そこも少し残念でしたが、勝てたのはやはり気持ちが良いです。